

2012年10月2日

～ スキンケアの心理的効果を脳血流変化により解析 ～

ノエビアは、脳血流変化からスキンケアの心理的効果を定量的に評価する手法の開発において、化粧品を用いたスキンケア行為により、脳血流変化が大きくなること、さらに、加齢によって脳血流変化の減弱と心理的効果の低下が生じることを見出しました。

IFSCC(国際化粧品技術者会連盟)第27回大会にて発表

ノエビアは、従来、数値化が困難であったスキンケア行為による心理的効果の解析を、脳血流変化を指標とした定量的な評価方法により行ってきました。これにより、化粧品を用いたスキンケア行為により、脳血流変化が大きくなること、さらに、加齢によって脳血流変化の減弱と心理的効果の低下が生じることを見出しました。このことは、スキンケア行為により、加齢による脳血流変化の減弱を抑制できる可能性を示唆しています。この研究成果を、2012年10月15日～18日に南アフリカ共和国・ヨハネスブルグで行われる「IFSCC(国際化粧品技術者会連盟)第27回大会」にて発表いたします。尚、今回の成果を来年の基礎化粧品の開発に応用する予定です。

【研究の概要】

基礎化粧品を使用した肌のお手入れやマッサージなどスキンケア行為によるストレスの緩和や心地よさなどの心理的効果である「感性価値」は、抗老化成分といった「機能的価値」とあわせて重要です。しかし、スキンケア行為による心理的効果の評価は、従来、アンケートによる主観的な方法で行われておりました。そこで、機能的近赤外分光法(FOIRE-3000 / 島津製作所製)を用い、脳血流変化を指標として、スキンケア行為による心理的効果を定量的に解析しました。

これにより、スキンケア行為や基礎化粧品の使用による心理的効果は、これまでの手法に脳血流計測をあわせて行うことで、より正確に評価できることが分かりました。また、加齢により脳血流変化の減弱と心理的効果の低下が生じることを見出しました。

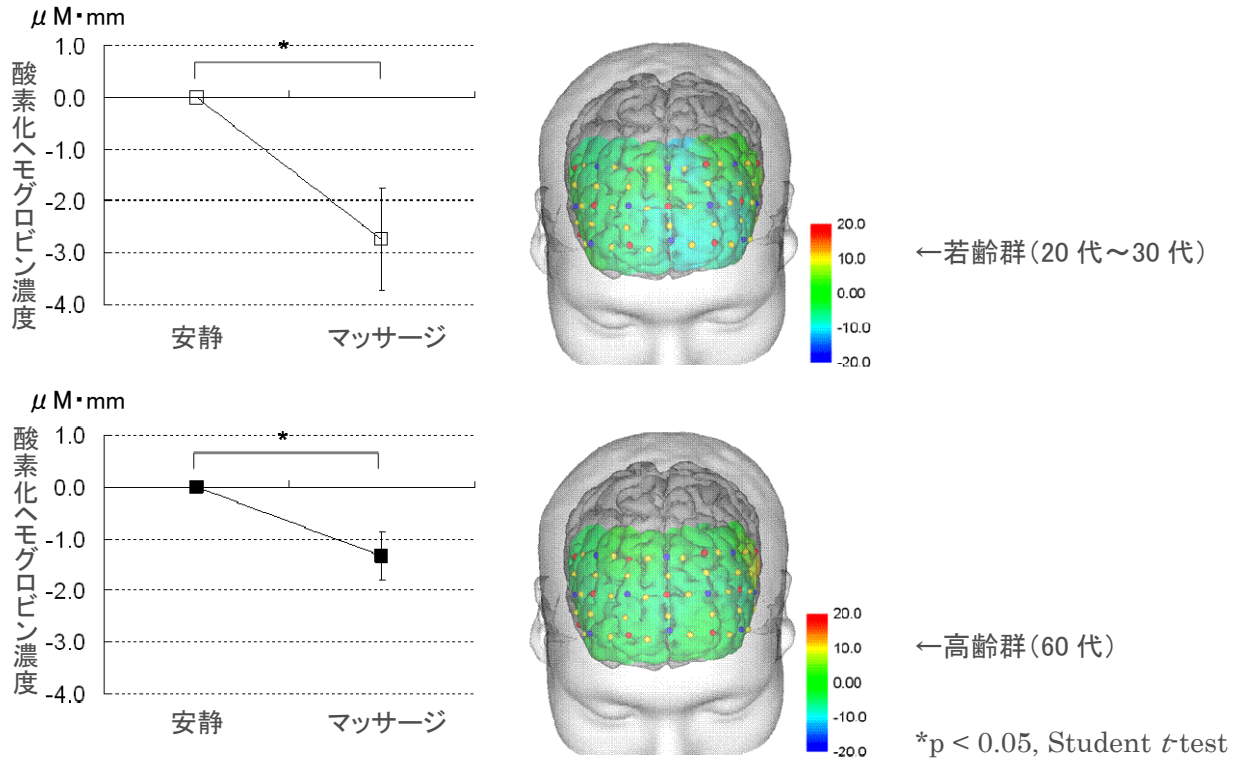
<このリリースに関するお問い合わせ>

株式会社ノエビア 東京都中央区銀座 7-6-15 広報・宣伝部 後藤・森山
TEL 03-5568-0349 FAX 03-5568-0441

【研究の成果】

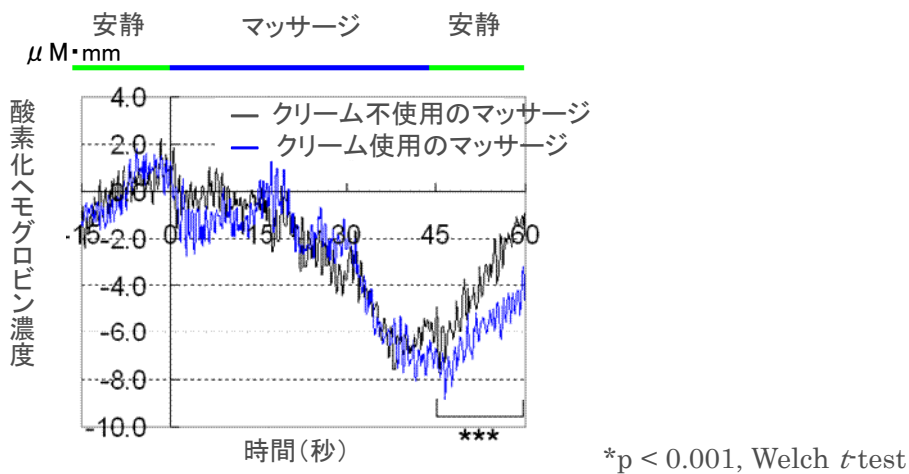
【1】 フェイシャルマッサージによる酸素化ヘモグロビンの変化

マッサージクリームを使用してフェイシャルマッサージを行うと、年齢に関わらず、前頭前野における酸素化ヘモグロビンが低下した。



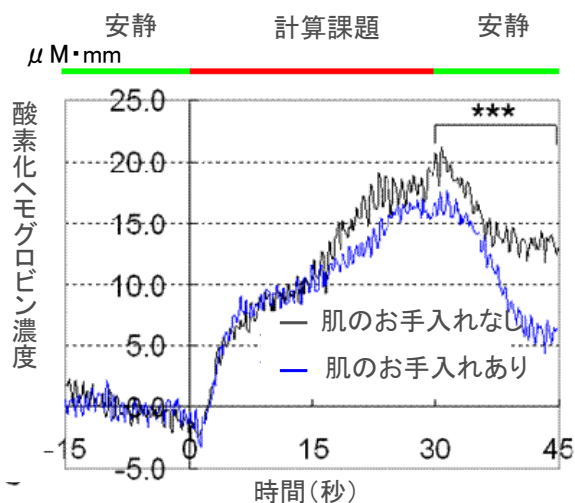
【2】 フェイシャルマッサージによる酸素化ヘモグロビンの変化(マッサージクリームの影響)

マッサージクリームを使用してフェイシャルマッサージを行うと、マッサージクリームを使用しない時より、前頭前野における酸素化ヘモグロビンが低下した。



【3】 ストレス課題時における酸素化ヘモグロビンの変化(基礎化粧品を用いた肌のお手入れの影響)

基礎化粧品を使用した肌のお手入れを行うと、お手入れを行わない時より、ストレス時における酸素化ヘモグロビンの上昇が抑えられた。



*p < 0.001, Welch t-test

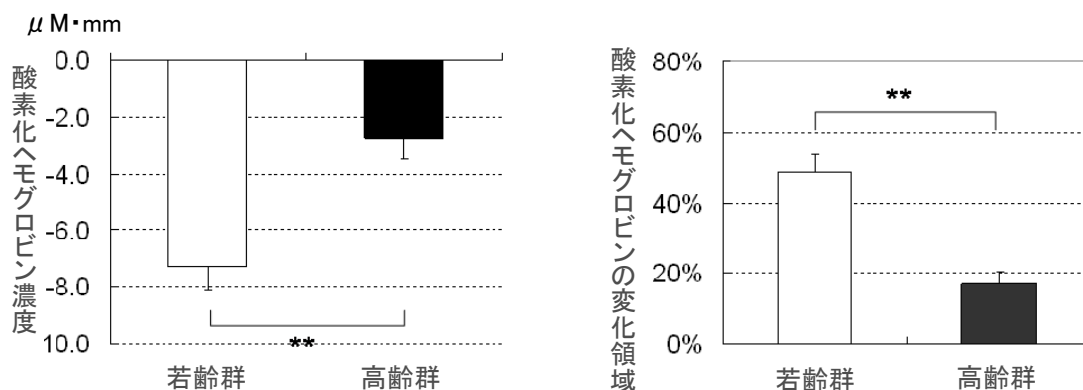
【4】 フェイシャルマッサージやスキンケア行為により心理的効果を感じた人の割合(アンケート評価)

フェイシャルマッサージや基礎化粧品を使用した肌のお手入れにより、リラックスや心地よさなどの心理的効果を感じられた。

年齢	条件	リラックス	リフレッシュ	心地よさ
若年齢群	クリーム不使用のフェイシャルマッサージ	33%	25%	33%
	クリーム使用のフェイシャルマッサージ	100%	92%	92%
	基礎化粧品を使用した肌のお手入れなし	17%	17%	0%
	基礎化粧品を使用した肌のお手入れ	100%	100%	100%

【5】 フェイシャルマッサージによる酸素化ヘモグロビンの変化

加齢によってフェイシャルマッサージによる脳血流変化が小さくなり【5】、心理的効果を感じる人の割合が低下した【6】。



*p < 0.01, Student t-test

【6】 心理的効果を感じた人の割合の加齢変化(アンケート評価)

年齢	条件	リラックス	リフレッシュ	心地よさ
若年齢群	クリーム使用のフェイシャルマッサージ	100%	92%	92%
高齢群	クリーム使用のフェイシャルマッサージ	86%	57%	86%